年　　組　　番　名前

1　温暖化について、温暖化なんてまったく嘘っぱちだということを科学的に主張する人もいます。ＩＰＣＣのなかで、温暖化を必ずしもサポートしないデータは削っておこう、という改ざんが実際に行われたという話も伝えられました。アル・ゴアの作った映画『不都合な真実』にも、かなり作為が入っています。

2　それでもやはり私たちは、温暖化に対していま対策をとることが必要だ、という立場なのです。ようやく本題に入りますが、科学者の立場としては一〇〇パーセントこうだとはいえない。そうすると科学者の立場としてどういう表現をすればいいか。

3　それが、温暖化や地球環境問題、エネルギー問題などでしばしば使われる、「シナリオ」という考え方なのです。

4　シナリオという言葉は、本来は自然科学の世界には絶対にありえない話です。自然科学では、原因が結果を生み、その結果が原因となって、その原因が再び結果を生み、という「原因と結果との連鎖」という形で記述が行われます。一本の糸に、途中からある条件を加えれば分かれ道もあるかもしれないけれど、分かれ道もまた一本の糸、というのが普通の科学の姿です。

5　しかしながら、不確実な世界での科学の予言はまず、現在の条件を全部網羅することができない。そこで、いま知っている条件はこれだけだとすれば、ここからどういう経過を辿るであろうかということに関して、いくつかの可能性を物語にします。それがシナリオです。この物語がシナリオと呼ばれる背景にはもうひとつ、環境問題などに典型的ですが、人間の行為・行動が入ってくるという点があります。人間がアクター（役者）の一つになるのです。

6　自然科学の「合理性」は、もともと人間の行動に対してはほとんど無力です。たとえば、日本が温室効果ガス二五パーセント削減という目標を十年の間に実現するという前提に立ち、日本のエネルギーの需給関係から見ると実現不可能なので、では人間の経済活動をこう規制したらこうなるだろう、しかし規制が逆効果を生んだらこうなるだろう、などと、何本かのシナリオが書けるのです。

7　そうすると、最も楽観的なシナリオと最も悲観的なシナリオというのが、当然できる。何本かあるなかで最も悲観的なシナリオが実現してしまったら、二十年後、二十五年後に、あのときこうすればよかった、と後悔の臍をかむことになります。われわれが臍をかむだけならまだしも、その次の世代、次の次の世代、もしかしたら自分にとって会うことのない子孫の時代に、地球に生きている人にとってきわめて不利な自然環境なり、エネルギー環境なりを作り出してしまったとすれば、われわれは彼らに対して道義的、倫理的な責任が生じるだろう、トランス・サイエンスの中でも、環境問題やエネルギー問題に関しては、このような問題意識が、今はかなり強くなってきています。

村上陽一郎『人間にとって科学とは何か』二〇一〇・一〇

【要約トレーニング】
①文章全体を読む。
②全体を三つの段落に分け、三つの段落それぞれの役割を考える。
③三段落それぞれの中で重要な一文に線を引く。
④文章全体の中で最も重要な一文に二重線を引く。
⑤文章全体を百字で要約する。

25　50　75　100

②のヒント　説明／話題の提示／筆者の意見